

普及活動情勢報告（令和3年4月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

ナスフザリウム立枯病対策への気運が醸成中 ～生産者・関係機関と協力して調査を実施～



農業改良普及課は、農業技術センター病理担当とのナスフザリウム立枯病の現地調査結果を基に、JAと、より効果的な殺菌剤の使用方法等を検討し、令和2年9月に管内の病害防除体系を改訂しました。この防除効果を確認するため、防除対策実施生産者のほ場で、発病株率を月1～2回調査しています。令和3年3月までの中間結果では、38戸の平均発病株率は0.2%と少なく推移しています。

4月9日に芸西地区2ほ場で行った調査で、発病株を新たに確認しました。農業改良普及課は生産者に「発病株はほ場外で処分し、感染源を次作に残さないように」と指導しました。

今後も農業改良普及課は、農業技術センター、JA、生産者と協力して、栽培終了の6月まで調査および防除指導を継続し、フザリウム立枯病の発生低減、収量の向上を目指します。

J A高知県安芸地区柚子部東川支部勉強会を開催



4月14日、農業改良普及課は、JA高知県あき東支所で東川支部柚子勉強会を開催し、生産者や関係者ら14人が参加しました。

この勉強会は、各時期の栽培管理等について情報共有を行う場として、繁忙期を除いて毎月開催されています。

勉強会で農業改良普及課から、防除作業の省力化を見据えたドローンによる農薬散布の実演について提案したところ、生産者から「傾斜地の防除はしんどい」「実演してほしい」といった声が聴かれ、今後実施に向けて調整していくこととなりました。

農業改良普及課では、今後も関係機関と連携して、ユズ産地の将来を見据えた栽培管理を指導していきます。

東大野集落営農組織総会



4月19日、田野町公民館大野倶楽部で、東大野集落営農組織総会が開催されました。

総会には組合員20人が参加し、今年度の活動として、水稻の作業受託やWCS栽培のほか露地野菜の栽培が決定しました。

農業改良普及課は、事前に組合員を対象に水稻の作業委託に関する意向把握のためのアンケート調査を実施しており、当日はアンケートの回収と今後のスケジュールについて説明しました。

今後、農業改良普及課はアンケート結果を基に、東大野集落営農組織の水稻の作業受託体制づくりを支援していきます。

米作りに「ちょうせん」！～吉良川小学校田植え体験学習～



4月19日、農業改良普及課室戸支所は、室戸市の水田で吉良川小学校の5・6年生14人を対象に、田植えの体験学習を行いました。

農業改良普及課室戸支所は、まず苗作りの重要性や水管理について説明しました。次に児童らが、地元水稻農家やJA営農指導員の補助を受けながら、実際に苗を植えて田植えの方法を学びました。

児童たちははじめは慣れない泥の感触に驚いた声を上げていましたが、最後は黙々と真剣に植え、「植えているうちに慣れてきて夢中になった」と話していました。

農業改良普及課室戸支所は、今後も米作りの学習を通じて児童の食への理解を深めます。